



江戸
 遊
 記
 女
 多
 分

^ 13
 3299
 23



18
3299
23

勝津流源軍統記卷廿二

目錄

茶儀藥

一 氏寸智とらつて流を謀る事

行り榎田ふか他王境と付たる死の事

一 後軍日氏山城攻の事

行り新田武長と大智徳斗の事

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

鴻洋琉球年表記卷之廿二

一 氏寸智と以て琉と珠の中

付り 赤池王と付え忠死の中

君臣を授けしより、忠孝を以てし、
臣は、徳ととそ、善とと、
の召ひを、信、人の、
子、弱、を、
将の仁

心別中と、茶膳のまじりて、ついでに、
が、成り、さし、佐野、市、の、成、形、骨、武、
あ、わ、く、い、み、び、あ、く、志、も、う、く、人、と、使、
言、せ、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、
茶膳のもの、あ、く、皆、別、骨、ふ、く、あ、ま、
と、も、中、中、一、様、田、あ、他、の、市、の、思、志、と、飲、り、
し、の、此、と、い、く、功、と、と、人、の、あ、
ふ、ら、か、と、あ、ら、く、は、り、の、は、ら、え、ら、の、條、
ふ、ら、か、と、あ、ら、く、は、り、の、は、ら、え、ら、の、條、

から、れ、ち、ひ、ふ、是、と、う、且、と、ふ、死、せん、と
強、せ、く、た、ま、人、の、家、名、お、後、の、事、と
あ、ら、ひ、く、ね、後、く、を、り、く、軍、隊、武、
さ、ら、ち、佐、野、を、東、と、い、く、い、ら、う、家、名、お、後、と、
貴、の、の、ま、ら、く、あ、ら、く、後、合、く、ら、
あ、他、今、ら、ら、の、事、を、ひ、あ、く、し、ま、ゆ、ら、
死、く、言、泉、の、人、は、(一)世、の、ま、ら、
と、今、よ、せ、し、志、く、進、も、死、生、の、今、よ、

是の吊ひ合戦いさなしく〜付死
せんと只食表に軍おあご〜先陣とを
し武蔵も幸ひ小見とゆかせ〜ふあ師
悦びり〜先子と後〜三方のまど
川〜日流山も押ありとて武蔵も後
陣と幸〜林原もゆり敵をのちとまか
宿願ひりらいとて戦中〜王震をいりか
路戦の目念とゆ〜傷をむらあ〜事

う友軍もあつ小見とせは〜ともあり
と〜徳軍勢と〜お清り〜
標田の面も万余人あり〜山とせり城邊
と〜押あり〜同音小見と法より後地
とあけけんとい〜も戦中〜あづまり
と〜音もゆ〜あゆはと〜あふ
宗のんとせば大井右衛門〜あんどとあ
出も〜あふ〜ゆり戦を〜あふ

改破り呉んむとのと三三にわらん
まろ市小株原より軍師使を池て講
かろゆかれ日も夕陽なび呉んむ
今日いり追き四百いあたりりかろ
と訂しりちゆいゆ力ゆく徳軍と外
く株原小退きこの夜体息しとぬと日
知の別より直び押あんとと今討武
ちいふゆとなく中りり人今日ま

改ありともあふせむ味方の手負も多
ふくされとく敵生る討合戦を
ふん是よりつらめの方使とま
もり王を殺すやが貴王様といふよめ力強
く勇別ふく〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
常りをおもひもい王様ありとゆゆと
い出〜おあゆゆ人の仇と報する
理あり今ゆか〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

しむせば紙は結と城下もと道徳軍々
有りくむせは王意をい出せしむ王意如り
小堀もいおと出へし一守附あんとし
ありし地への利よありし戦ふを指利
とひんる能ひをしと徳め通しむあり
心結と後しりれは心腹互ひ陣し
懐びをりし守も心斗ひは思の行りし
し結むと又く守も守りしとし

しむかしむせ修地とあけ果とほり
味方の威とあして後例のめく通例
の云小堀もあつたのしむ城下も系
小堀も不ありし件の紙は結と古件
小堀自通く城下も守りし大音あり
あつしむと戦も小いしと命とあむ
どや陣中もあつた守りしとあむ
王意をい出せしむしむの斗もあむ

かちりきんらうのど
入近日びめく捕らるしある事と
あざむるこそかろふれ後日本悔あ
しめんが内神國の情ともろく海
舟の海とあつて一めあむらるる
とえもとあつて一國よらとあひ
く城まどもゆるゆんと城下とえさ
大ひある紙巻とゆきましくと
王君まが形とあがきつるのと小
つひあつて

の土卒み是とけとさせる國あり今一
王君とあつてよまの島小ものせ
琉球のまども是かけりゆと魚
幸くくさいとあつて大文字は
て姓名と死し王君かけり琉球の情
小も同く大文字あつて日政山の
衆約の魚いこのととて路系ま書
舟あり船まをとるく島り路ま

此時王長史の大王の御前より王
夫人より居りらるる土卒のさしきとて何卒
と知りれを志しぬのゆとさるる
王長史自ら檣小せりし是を以て土卒が
中へて我形とて急き此中の紙を執ると
くその下小儀を管甲中肯かぬとて木落
みより居るもわりの原のともやとて眼
柄へ侍美平人の御前より王長

忽ち方ひ小娘とてかへりしとて
小遊女とて呉山とて馬行あり
く大まきめり梓とて地城のとて急き
しくふおとて出を土卒ども御前
とて少とて是御前とて右御人御前
はひとてお出とて王長史の御前
とて御前とて御前の御前とて御前
くかへりしは侍居るも木落とて

小おろれ甲冑武具とちれくぞん
小迹も〜と道も〜と進め
不ふか〜と横田おゆと搦
うけ出〜王隈小渡り合志〜さへ
戦ひゆり肩〜進りれと王隈搦ふて
進〜るお他中後〜と〜と十餘
合戦ひ〜と肩〜と〜と孫や
之〜王隈小渡さ〜の〜と進

ゆりれば王隈さ〜と戦とゆ〜とゆ
い〜と怒り殺後と〜と〜と終小村を
進下りおゆ十〜とおひきあ〜と人の
敵真途の云々不志の首と〜とまんは
ま〜と山と〜とほん〜と〜とひと
槍か槍ちりちや〜と〜と王隈も
ひ峰と〜と〜と兵一ちと〜と〜と
細柳の〜と〜と〜と〜と〜と

ちがしりれを王権階ひがしり
て是ゆる不とゆゆりしとふ助るどとせ
らせ一ち方ゆ月ゆりし王権えら大
ふめて存人との権ときこりし丸裏
は赤地ちりえ連さんとゆる不王権が
岸の柄長くしと先連し白中をゆ
常土をどとも軍子別さうる黒さふおゆが
近りりゆるとゆと岸と控くおゆが

権とあゆみはらんで引家んとたをカ小
川とととあ地島とと王権が勢はゆ小
川ととと足跡ゆくとおく川地より
王権はゆみの口土をどとあゆとゆ付
ゆとせはさしとと捕るまみとゆ
せんと権縁の不きとゆの権田をの権
とゆんとおとゆゆりおとゆしゆゆ
とゆりゆ権ゆら権ゆとゆりゆゆ

えんがん
まふおとしく強きとも遠く山のふ
近き山内城申す王を大軍の
衆もあつるや王強がゆく出る
少きひし強きき市河小城の事
是より王強持参してなり一時
所んと思ふ眼を射る人も
べと岩金終極ひのおおしく出山の
事し事し武勇も是を以て大軍

一國小政もさる強ひかえせりし王
をまゆ切られし行史をば味方
討て一人よるやと大軍か
斗りし行しり多王強と終ふ
脚がぬれ討しり武勇も終つ
めく大軍と名を陣申すり
手前と同行しり大軍の脚
也行入る後痛手をも

ものしりぞ 倭軍のまうら半やくと
近たる紙巻とを考うくえむ王震
いさくろ怒の氣まうらりれども 倭軍の
手前もみまうら 吹方あひくまうら 波
王震と語りく日次山のまうら 倭軍ま
書くゆるとえく 倭軍大軍あれむ
易のまうらけくまうら 一まうら 防ぎ守り半
あわく 倭軍 ねまうら 戦目と送る中

小土平のまうら 愛して百一のまうら
乃まうら 思ふらり 倭軍のまうら
とも 殺くせむ 一まうら 倭軍のまうら
武震もが方寸の斗る 王震と対
王震まうら 怒む 一まうら 倭軍のまうら
まうら 一まうら 倭軍のまうら
あまうら 一まうら 倭軍のまうら
う 半ひ合戦 王震と対 大まうら 勝利

もせびちり春に當城のふ成もあや
王城も如きのふる高城をんと申りしが
王君まが曰是ハ故を明くふ政の事
叶ハ思ひのちのどく流とまま之を
神と見せ積夜付あんどふおあを
おま〜政んとまかり〜そのあは二りあ
城中のま糧つらとま〜と急小政け
んとおまふとりのあ〜人味方ま糧をま法ふ

あまじと申の二の心電城よりともあま
申々〜時の今六月末〜
極意小ハ送くを天小〜と日
申回と申〜あま小後せぬともい
〜あ〜は物をま〜とま
〜まや城とま〜あ〜あ
〜ま〜いとま〜とま
〜あ〜とま〜とま

倭軍のつらう坂水まづ一死
るめりまぢと悦び笑ひく酒宴と
けく徳軍と侮めをこくあまの疎
をとほくくもりくたの山のふ
ちろく踏一陣とすま一の高城の後詰を
踏くの舛なり是とすろく思ふよ王城
いまく味方のまもりたるのあまん
途と踏くも自中あまらる由言伝

とすまといども張の幡を折る付死の
中ももしづと張の旗は秋國の常
子に智海さしものかりやと付死ま
き草あまの身言をまの王城を
彼草あまのなまもくまのあま
かへれと倭軍大勝ふては方あり
書城のめくもりあまはもやと
るもあまもくまもく踏く申す

只源も傳年等もき定わかうことある
あつらう病老多く出来く近くみ
あり味方わしも物ある半句とたま
ふりりあをたま年と王君まがゆ
あはれたうそあんとらと家来とあ
半句あひものいたりりあはる日
と清く武能るあ龍子を振が我を
あを海飲させたま山路系とよめあ

と斗人と勢もあうともあはる
たまはつて四家のあふ骨と辨せはあめ
んと四いしあはらの保年ありとりしを
あ龍もつて四家万氏のああはあ
辨年ともあはるは年とあめ
さんとあはるあ武能るあ
かどつてあはるとあはるあはる
のめくあはるあはるあはるあはる

滅せざるふしのびぎらぶ(ち)智とていふ
伏せ四の安ふと改させ度やふとの
半あり王を養ふ年で治ぐも此を
軍威と流もは後ふづきや波と敷くその
り半ありふの波あをたるぬ於せ
ゆとあふたふよとのやいぬめり
りよの光籠子たまふかんじ
ぬ中ふあふが乃ふあふたひあはゆあひ

ふとあふたふよとのやいぬめり
と折るあふたふよとのやいぬめり
めうせ布耐ふ王城(ま)きりりふ張助情
えぬる合戦ふ眼と折るは橋作とらへ
まづづ橋をたふ有るは合戦
平金いせはといふも大木ぬもい苦痛
とたまふりぬる布子今中籠子ふ書ひ
少く軍師もあ武勇あは折るのりあ

たきも移るが使し伝も王城とす
日取山の珠(来)りて武彦もす
平金と如くして心とあらしめ
やがて珠のと強ぐりり

鴻津流珠軍勢就巻廿三 終り

